



## CHAPTER 2

# CMP の接続、構成、およびアップグレード

ここでは、Cisco Nexus 7000 シリーズ デバイスに搭載された Connectivity Management Processor (CMP; 接続管理プロセッサ) を接続および構成する方法について説明します。また、CMP のソフトウェア イメージをアップデートする方法についても説明します。

この章では、次の内容について説明します。

- 「CMP MGMT イーサネット ポートへの接続」(P.2-1)
- 「CMP の設定」(P.2-2)
- 「CMP 設定の確認」(P.2-19)
- 「CMP イメージのアップグレード」(P.2-20)
- 「CMP パラメータのデフォルト設定」(P.2-21)

## CMP MGMT イーサネット ポートへの接続

CMP をネットワークに接続するには、設置された各スーパーバイザで次の手順を実行します。

- ステップ 1** スーパーバイザ上の CMP MGMT ETH ポートにモジュラ、RJ-45、UTP ケーブルを接続します。
- ステップ 2** Cisco Nexus 7000 シリーズ シャーシのケーブル管理システムの中央スロットにケーブルを通します。
- ステップ 3** ネットワーキング デバイスにケーブルの反対側を接続します。

デバイスを初めて設定する際の初期セットアップ スクリプト時に `cmp-mgmt` インターフェイスを設定します。セットアップ スクリプトの詳細については、『*Cisco Nexus 7000 Series NX-OS Fundamentals Configuration Guide, Release 4.1*』を参照してください。



**注意**

IP アドレスの競合を防ぐため、初期設定が完了するまで CMP MGMT ポートをネットワークに接続しないでください。イーサネット接続とケーブル管理の詳細については、『*Cisco Nexus 7000 Series Hardware Installation and Reference Guide*』を参照してください。

## CMP の設定

ここでは、次の内容について説明します。

- 「CP から CMP へのアクセス」 (P.2-2)
- 「CMP セッションのログアウト」 (P.2-3)
- 「CMP-MGMT インターフェイスの設定」 (P.2-3)
- 「CMP への IPv4 ACL の設定」 (P.2-6)
- 「CMP メッセージのロギング」 (P.2-8)
- 「通信設定の変更」 (P.2-11)
- 「フロー制御の設定」 (P.2-16)
- 「デュアル スーパーバイザ システムでの CMP の設定」 (P.2-19)

## CP から CMP へのアクセス

CP を使用してコンソール、SSH、または Telnet セッションから CMP にアクセスできます。



(注)

SSH または Telnet 経由で CMP にアクセスするには、それぞれのセッションを CMP (デフォルトでは、SSH サーバセッションがイネーブル) でイネーブルにします。SSH または Telnet セッションをイネーブルまたはディセーブルにする方法については、表 1-2 (P.1-3) を参照してください。

### 設定作業を開始する前に

デフォルトの VDC に属することを確認します (または **switchback** コマンドを使用します)。

### 手順の概要

#### 1. attach cmp

### 詳細手順

	コマンド	目的
ステップ 1	<pre>attach cmp</pre> <p>例:</p> <pre>switch# attach cmp</pre> <pre>Connected Escape character is '^,' switch-cmp#</pre>	アクティブなスーパーバイザ モジュールの CMP にアクセスします。

## CMP セッションのログアウト

CMP セッションをログアウトする場合、セッションを終了してからモードを終了します。

### 設定作業を開始する前に

CMP にアクセスしている必要があります。

### 手順の概要

1. end
2. exit

### 詳細手順

	コマンド	目的
ステップ 1	end  例： switch-cmp# end  switch-cmp#	コンフィギュレーションセッションを終了します。
ステップ 1	exit  例： switch-cmp exit switch	CMP コンフィギュレーション モードを終了します。



(注) 接続されたコンソールのセッションにアクセスしている場合、~、コマンドを使用して CMP を終了します。

## CMP-MGMT インターフェイスの設定

Telnet または SSH セッションを通して CMP に接続する前に CMP-MGMT インターフェイスを設定する必要があります。



(注) CP を設定したときと異なり、**copy running-config startup-config** コマンドを使用して CMP-MGMT インターフェイスを設定する必要がありません。CMP-MGMT インターフェイスの設定中にコマンドを入力するたびに、Cisco NX-OS オペレーティング システムによって変更された設定が CMP フラッシュドライブに保存されます。

次では、CMP-MGMT インターフェイスの設定方法をいくつか説明します。

- 「CP のセットアップ スクリプトを使用した CMP-MGMT インターフェイスの設定」(P.2-4)
- 「CP の NX-OS CLI を使用した CMP-MGMT インターフェイスの設定」(P.2-4)
- 「CMP の NX-OS CLI を使用した CMP-MGMT インターフェイスの設定」(P.2-5)

## CP のセットアップ スクリプトを使用した CMP-MGMT インターフェイスの設定

Cisco NX-OS セットアップ スクリプトが CMP-MGMT インターフェイスの設定を案内します。このスクリプトの使用方法については『Cisco Nexus 7000 Series NX-OS Fundamentals Configuration Guide, Release 4.1』を参照してください。

## CP の NX-OS CLI を使用した CMP-MGMT インターフェイスの設定

CP の NX-OS CLI を使用して CMP-MGMT インターフェイスを設定できます。

### 設定作業を開始する前に

デフォルトの VDC に属することを確認します（または **switchback** コマンドを使用します）。

### 手順の概要

1. **configure terminal**
2. **interface cmp-mgmt module slot**
3. **ip address ip-address/length**
4. **ip default-gateway ip-address**
5. **show running-config cmp**

### 詳細手順

	コマンド	目的
ステップ 1	<b>configure terminal</b>  例: switch# configure terminal switch(config)#	コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	<b>interface cmp-mgmt module slot</b>  例: switch(config)# interface cmp-mgmt module 5 switch(config-if-cmp)#	アクティブまたはスタンバイ スーパーバイザのどちらか一方の <b>cmp-mgmt</b> インターフェイスのインターフェイス コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>ip address ip-address/length</b>  例: switch(config-if-cmp)# ip address 192.0.2.1/16	この <b>cmp-mgmt</b> インターフェイスの IP アドレスを設定します。
ステップ 4	<b>ip default-gateway ip-address</b>  例: switch(config-if-cmp)# ip default-gateway 192.0.2.10	この <b>cmp-mgmt</b> インターフェイスのデフォルト ゲートウェイを設定します。
ステップ 5	<b>show running-config cmp</b>  例: switch(config-if-cmp)# show running-config cmp	(任意) CMP インターフェイス設定のサマリーを表示します。

## CMPのNX-OS CLIを使用したCMP-MGMT インターフェイスの設定

CPのNX-OS CLIを使用してCMP-MGMT インターフェイスを設定できます。

### 設定作業を開始する前に

デフォルトのVDCに属することを確認します（または **switchback** コマンドを使用します）。

### 手順の概要

1. **attach cmp**
2. **configure terminal**
3. **ip default-gateway ip-address**
4. **interface cmp-mgmt**
5. **ip address ip-address/length**
6. **show running-config**
7. ~,

### 詳細手順

	コマンド	目的
ステップ1	<b>attach cmp</b>  例： switch# attach cmp switch-cmp5 login: admin Password: <password>#	スーパーバイザ CP から CMP に接続します。
ステップ2	<b>configure terminal</b>  例： switch-cmp# configure terminal switch-cmp(config)#	CMP のコンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ3	<b>ip default-gateway ip-address</b>  例： switch-cmp(config)# ip default-gateway 192.0.2.10	cmp-mgmt インターフェイスのデフォルト ゲートウェイを設定します。
ステップ4	<b>interface cmp-mgmt</b>  例： switch-cmp(config)# interface cmp-mgmt switch-cmp(config-if)#	アクティブまたはスタンバイ スーパーバイザのどちらか一方の cmp-mgmt インターフェイスのインターフェイス コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ5	<b>ip address ip-address/length</b>  例： switch-cmp(config-if)# ip address 192.0.2.1/16	この cmp-mgmt インターフェイスの IP アドレスを設定します。

	コマンド	目的
ステップ 6	<code>show running-config</code>  例: switch-cmp(config-if)# show running-config	(任意) CMP の設定を表示します。
ステップ 7	<code>~,</code>  例: switch-cmp(config-if)# ~, switch#	(任意) CMP コンソールを終了し、CP の Cisco NX-OS CLI に戻ります。

## CMP への IPv4 ACL の設定

IPv4 Access Control List (ACL; アクセス コントロール リスト) を作成し、cmp-mgmt インターフェイスに適用できます。ACL の詳細については、『Cisco Nexus 7000 Series NX-OS Security Configuration Guide, Release 4.1』を参照してください。



(注) CMP に直接設定できるのは ACL だけです。スーパーバイザ モジュール CP の Cisco NX-OS ソフトウェアからは設定できません。

### 設定作業を開始する前に

CMP に接続済みである必要があります（「[CMP の NX-OS CLI を使用した CMP-MGMT インターフェイスの設定](#)」(P.2-5) を参照）。

### 手順の概要

1. `configure terminal`
2. `ip access-list name`
3. `{permit | deny} protocol source destination`
4. `exit`
5. `interface cmp-mgmt`
6. `ip access-group access-list in`
7. `show running-config`

## 詳細手順

	コマンド	目的
ステップ1	<code>configure terminal</code>  例: switch-cmp# configure terminal switch-cmp(config)#	CMPのグローバルコンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ2	<code>ip access-list name</code>  例: switch-cmp(config)# ip access-list acl-01 switch-cmp(config-acl)#	IPv4 ACLを作成し、IP ACLコンフィギュレーションモードを開始します。 <i>name</i> 引数に指定できる文字数は、最大 64 文字です。
ステップ3	<code>{permit   deny} protocol source destination</code>  例: switch-cmp(config-acl)# permit ip 192.168.2.0/24 0.0.0.0/0	IPv4 ACLにルールを作成します。  <b>permit</b> コマンドと <b>deny</b> コマンドには、トラフィックを識別するための多くの方法が用意されています。詳細については、『Cisco NX-OS Security Command Reference』を参照してください。
ステップ4	<code>exit</code>  例: switch-cmp(config-acl)# exit switch-cmp(config)#	コンフィギュレーションモードに戻ります。
ステップ5	<code>interface cmp-mgmt</code>  例: switch-cmp(config)# interface cmp-mgmt switch-cmp(config-if)#	アクティブまたはスタンバイスーパーバイザのどちらか一方の <b>cmp-mgmt</b> インターフェイスのインターフェイスコンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ6	<code>ip access-group access-list in</code>  例: switch-cmp(config-if)# ip access-group acl-01 in	インターフェイスに流れるトラフィックに対して、IPv4 ACLを <b>cmp-mgmt</b> インターフェイスに適用します。
ステップ7	<code>show running-config</code>  例: switch-cmp(config-if)# show running-config	(任意) CMPの設定を表示します。

## CMP メッセージのロギング

CMP メッセージはログ ファイルに 256 件まで保存できます。また、保存したメッセージに重大度のしきい値を指定できます。ファイルのメッセージが 256 件に到達すると、新しいメッセージが保存されるたびに、CMP によって、自動的に一番古いメッセージが削除されます。表 1 に CMP で保存されるメッセージ レベルとメッセージ タイプを示します。重大度を指定した場合、CMP では、その重大度以下のメッセージすべてがログ ファイルに保存されます。

表 1 CMP メッセージの重大度

重大度	保存されたメッセージ	説明
0 - 緊急事態	—	—
1 - アラート	CP on this SUP has reset.	CMP によって、CP でマスクできない中断が検出されました。
2 - クリティカル	CP is not online (could not establish communication with CP). Connected with CP!LOG CP IS ONLINE. Connection reset with CP!!	CMP が CP と通信できません。 CMP と CP は通信できます。 CMP で CP ハートビートの最大数を検出できません。
3 - エラー	—	—
4 - 警告	—	—
5 - 通知	—	—
6 - 情報	—	—
7 - デバッグ	—	—

ここでは、次の内容について説明します。

- 「保存したメッセージの表示」 (P.2-9)
- 「ログ レベルの設定」 (P.2-10)
- 「ログ ファイルの消去」 (P.2-11)



## 保存したメッセージの表示

**show logging** コマンドを使用すると、CMP ログ ファイルに保存されたメッセージすべてまたは最近保存された特定の数のメッセージを表示できます。

### 設定作業を開始する前に

デフォルトの VDC に属することを確認します（または **switchback** コマンドを使用します）。

### 手順の概要

1. **attach cmp**
2. **show logging logfile** {*number\_of\_messages*}
3. ~,

### 詳細手順

	コマンド	目的
ステップ 1	<b>attach cmp</b>  例： switch# attach cmp switch-cmp#	スーパーバイザ CP から CMP に接続します。
ステップ 2	<b>show logging logfile</b> { <i>number_of_messages</i> }  例： switch-cmp# show logging logfile switch-cmp(config)#	保存されたログ ファイルのメッセージが表示されます。最近保存されたメッセージの件数を指定する場合は、値（1 ~ 256）をコマンドの最後に含めます。
ステップ 3	~,  例： switch-cmp(config)# ~, switch#	（任意）CMP コンソールを終了し、CP の Cisco NX-OS CLI に戻ります。

## ログ レベルの設定

デフォルトでは、CMP によってレベル 2 以下のメッセージがログ ファイルに保存されます。

### 設定作業を開始する前に

デフォルトの VDC に属することを確認します (または **switchback** コマンドを使用します)。

### 手順の概要

1. **attach cmp**
2. **configure terminal**
3. **show logging level**
4. **logging level [1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7]**
5. **show logging level**
6. ~,

### 詳細手順

	コマンド	目的
ステップ 1	<b>attach cmp</b>  例: switch# attach cmp switch-cmp#	スーパーバイザ CP から CMP に接続します。
ステップ 2	<b>configure terminal</b>  例: switch-cmp# configure terminal switch-cmp(config)#	CMP のコンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>show logging level</b>  例: switch-cmp(config)# show logging level switch-cmp(config)#	(任意) 現在のログ レベルを表示します。
ステップ 4	<b>logging level [1   2   3   4   5   6   7]</b>  例: switch-cmp(config)# logging level 3 switch-cmp(config)#	ログ レベルのしきい値を新しく設定します。
ステップ 5	<b>show logging level</b>  例: switch-cmp(config)# show logging level switch-cmp(config)#	(任意) 現在のログ レベルを表示します。
ステップ 6	~,  例: switch-cmp(config)# ~, switch#	(任意) CMP コンソールを終了し、CP の Cisco NX-OS CLI に戻ります。

## ログ ファイルの消去

ログ ファイルの内容を消去できます。

### 設定作業を開始する前に

デフォルトの VDC に属することを確認します（または **switchback** コマンドを使用します）。

### 手順の概要

1. **attach cmp**
2. **configure terminal**
3. **clear logging logfile**
4. ~,

### 詳細手順

	コマンド	目的
ステップ 1	<b>attach cmp</b>  例： switch# attach cmp switch-cmp#	スーパーバイザ CP から CMP に接続します。
ステップ 2	<b>configure terminal</b>  例： switch-cmp# configure terminal switch-cmp(config)#	CMP のコンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>clear logging logfile</b>  例： switch-cmp(config)# clear logging logfile switch-cmp(config)#	ログ ファイルの内容をクリアします。
ステップ 4	~,  例： switch-cmp(config)# ~, switch#	(任意) CMP コンソールを終了し、CP の Cisco NX-OS CLI に戻ります。

## 通信設定の変更

通信速度、バイトあたりのビット数、端末パリティ、非同期ライン ストップ ビット、フロー制御設定を変更して、CMP が CP と通信できるようにします。

ここでは、次の内容について説明します。

- 「通信速度の変更」(P.2-12)
- 「伝送文字のビット数の変更」(P.2-13)
- 「パリティ チェックの変更」(P.2-14)
- 「非同期ストップ ビットの変更」(P.2-15)

## 通信速度の変更

CP と CMP の通信速度（ボー レート）は同じでなければいけません。CP と CMP の通信速度が異なる場合、CMP の速度を CP の速度に合わせて変更します。

### 設定作業を開始する前に

デフォルトの VDC に属することを確認します（または **switchback** コマンドを使用します）。

### 手順の概要

1. **attach cmp**
2. **configure terminal**
3. **line com1**
4. **show line**
5. **speed number**
6. **~,**

### 詳細手順

	コマンド	目的
ステップ 1	<b>attach cmp</b>  例: switch# attach cmp switch-cmp#	スーパーバイザ CP から CMP に接続します。
ステップ 2	<b>configure terminal</b>  例: switch-cmp# configure terminal switch-cmp(config)#	CMP のコンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>line com1</b>  例: switch-cmp(config)# line com1 switch-cmp(config-com1)#	メイン コンフィギュレーション ラインを設定します。
ステップ 4	<b>show line</b>  例: switch-cmp(config-com1)# show line	(任意) 通信の設定を表示します。
ステップ 5	<b>speed number</b>  例: switch-cmp(config-com1)# speed 9600	速度を 300、1200、2400、4800、9600、19200、38400、57600、または 115,200 ボーに変更します。
ステップ 6	<b>~,</b>  例: switch-cmp(config)# ~, switch#	(任意) CMP コンソールを終了し、CP の Cisco NX-OS CLI に戻ります。

## 伝送文字のビット数の変更

CP と CMP の伝送文字のビット数は、同じである必要があります。CP と CMP のデータ ビット数が異なる場合、CMP の数を CP の数に合わせて変更します。

### 設定作業を開始する前に

デフォルトの VDC に属することを確認します（または **switchback** コマンドを使用します）。

### 手順の概要

1. **attach cmp**
2. **configure terminal**
3. **line com1**
4. **show line**
5. **databits number**
6. ~,

### 詳細手順

	コマンド	目的
ステップ 1	<b>attach cmp</b>  例： Connected Escape character is '~,'  switch# attach cmp switch-cmp#	スーパーバイザ CP から CMP に接続します。
ステップ 2	<b>configure terminal</b>  例： switch-cmp# configure terminal switch-cmp(config)#	CMP のコンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>line com1</b>  例： switch-cmp(config)# line com1 switch-cmp(config-com1)#	メイン コンフィギュレーション ラインを設定します。
ステップ 4	<b>show line</b>  例： switch-cmp(config-com1)# show line	(任意) 通信の設定を表示します。
ステップ 5	<b>databits number</b>  例： switch-cmp(config-com1)# databits 8	文字のビット数の変更を設定します (5 ~ 8)。
ステップ 6	~,  例： switch-cmp(config)# ~, switch#	(任意) CMP コンソールを終了し、CP の Cisco NX-OS CLI に戻ります。

## パリティ チェックの変更

CP と CMP で使用するパリティ チェックのタイプは同じでなければなりません。CP と CMP のタイプが異なる場合、CMP のタイプを CP のタイプに合わせて変更します。

### 設定作業を開始する前に

デフォルトの VDC に属することを確認します (または **switchback** コマンドを使用します)。

### 手順の概要

1. **attach cmp**
2. **configure terminal**
3. **line com1**
4. **show line**
5. **parity {even | odd | none}**
6. **~,**

### 詳細手順

	コマンド	目的
ステップ 1	<b>attach cmp</b>  例: switch# attach cmp switch-cmp#	スーパーバイザ CP から CMP に接続します。
ステップ 2	<b>configure terminal</b>  例: switch-cmp# configure terminal switch-cmp(config)#	CMP のコンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>line com1</b>  例: switch-cmp(config)# line com1 switch-cmp(config-com1)#	メイン コンフィギュレーション ラインを設定します。
ステップ 4	<b>show line</b>  例: switch-cmp(config-com1)# show line	(任意) 通信の設定を表示します。
ステップ 5	<b>parity {even   odd   none}</b>  例: switch-cmp(config-com1)# parity none	単一ビットパリティ チェックを偶数パリティ、奇数パリティ、またはパリティの無視に設定します。
ステップ 6	<b>~,</b>  例: switch-cmp(config)# ~, switch#	(任意) CMP コンソールを終了し、CP の Cisco NX-OS CLI に戻ります。

## 非同期ストップビットの変更

CP と CMP で使用するストップビット数は同じでなければなりません。CP と CMP のストップビット数が異なる場合、CMP の数を CP の数に合わせて変更します。

### 設定作業を開始する前に

デフォルトの VDC に属することを確認します（または **switchback** コマンドを使用します）。

### 手順の概要

1. **attach cmp**
2. **configure terminal**
3. **line com1**
4. **stopbits {1 | 2}**
5. **exit**
6. **show line**
7. ~,

### 詳細手順

	コマンド	目的
ステップ 1	<b>attach cmp</b>  例： switch# attach cmp switch-cmp#	スーパーバイザ CP から CMP に接続します。
ステップ 2	<b>configure terminal</b>  例： switch-cmp# configure terminal switch-cmp(config)#	CMP のコンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>line com1</b>  例： switch-cmp(config)# line com1 switch-cmp(config-com1)#	メイン コンフィギュレーション ラインを設定します。
ステップ 4	<b>stopbits {1   2}</b>  例： switch-cmp(config-com1)# stopbits 1	文字フレームに含まれるストップビット数の変更を設定します。
ステップ 5	<b>exit</b>  例： switch-cmp(config-com1)# exit switch-cmp(config)#	COM1 コンフィギュレーション モードを終了します。

	コマンド	目的
ステップ 6	<b>show line</b>  例: switch-cmp(config-com1)# show line	(任意) 通信の設定を表示します。
ステップ 7	~,  例: switch-cmp(config)# ~, switch#	(任意) CMP コンソールを終了し、CP の Cisco NX-OS CLI に戻ります。

## フロー制御の設定

内部シリアル接続経由の CMP と CP 間のデータトラフィックフローを制限するのに、フロー制御のハードウェアバージョンを使用できます。CMP と CP でイネーブルすると、前のフレームが受信プロセッサによって処理されるまでフロー制御によってフレームのフローが遅延されます。

ここでは、次の内容について説明します。

- 「[CMP のフロー制御のイネーブルおよびディセーブル](#)」 (P.2-16)
- 「[CP のフロー制御のイネーブルおよびディセーブル](#)」 (P.2-18)

## CMP のフロー制御のイネーブルおよびディセーブル

CMP で CP を併用してフロー制御ハードウェアバージョンをするかを、イネーブルまたはディセーブルにできます。

### 設定作業を開始する前に

CP でフロー制御をイネーブルにします（「[CP のフロー制御のイネーブルおよびディセーブル](#)」 (P.2-18) を参照）。

デフォルトの VDC に属することを確認します（または **switchback** コマンドを使用します）。

### 手順の概要

1. **attach cmp**
2. **configure terminal**
3. **line com1**
4. **{flowcontrol hardware} | {no flowcontrol hardware}**
5. **exit**
6. **show line com1**
7. ~,



## 詳細手順

	コマンド	目的
ステップ1	<b>attach cmp</b>  例: switch# attach cmp switch-cmp#	スーパーバイザ CP から CMP に接続します。
ステップ2	<b>configure terminal</b>  例: switch-cmp# configure terminal switch-cmp(config)#	コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ3	<b>line com1</b>  例: switch-cmp(config)# line com1 switch-cmp(config-com1)#	CMP シリアル ラインを設定します。
ステップ4	<b>{flowcontrol hardware}   {no flowcontrol hardware}</b>  例: switch-cmp(config-com1)# flowcontrol hardware	フロー制御をイネーブルまたはディセーブルにします。
ステップ5	<b>show line com1</b>  例: switch-cmp(config-com1)# show line com1	(任意) インターフェイス ステータスを表示します。フロー制御パラメータもあわせて表示します。
ステップ6	<b>exit</b>  例: switch-cmp(config-com1)# exit switch-cmp(config)#	COM1 コンフィギュレーション モードを終了します。
ステップ7	<b>~,</b>  例: switch-cmp(config)# ~, switch#	(任意) CMP コンソールを終了し、CP の Cisco NX-OS CLI に戻ります。

## CP のフロー制御のイネーブルおよびディセーブル

CP で CMP を併用してフロー制御ハードウェア バージョンをするかを、イネーブルまたはディセーブルにできます。

### 設定作業を開始する前に

CMP でフロー制御をイネーブルにします（「[CMP のフロー制御のイネーブルおよびディセーブル](#)」(P.2-16) を参照）。

### 手順の概要

1. **configure terminal**
2. **line console**
3. **{flowcontrol hardware} | {no flowcontrol hardware}**
4. **show line console**
5. **exit**
6. **exit**

### 詳細手順

	コマンド	目的
ステップ 1	<b>configure terminal</b>  例: switch# configure terminal switch(config)#	コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	<b>line console</b>  例: switch(config)# line com1 switch(config-com1)#	CMP にシリアル ラインを指定します。
ステップ 3	<b>{flowcontrol hardware}   {no flowcontrol hardware}</b>  例: switch(config-com1)# flowcontrol hardware switch(config-com1)#	フロー制御をイネーブルまたはディセーブルにします。
ステップ 4	<b>show line console</b>  例: switch(config-com1)# show line com1 switch(config-com1)	(任意) インターフェイス ステータスを表示します。フロー制御パラメータもあわせて表示します。
ステップ 5	<b>exit</b>  例: switch(config-com1)# exit switch(config)#	COM1 コンフィギュレーション モードを終了します。
ステップ 6	<b>exit</b>  例: switch(config)# exit switch#	コンフィギュレーション モードを終了します。

## デュアル スーパーバイザ システムでの CMP の設定

アクティブなスーパーバイザ モジュールが 1 基の場合も含めて、CMP はいずれのスーパーバイザ モジュールでもアクティブ モードで稼働します。したがって、各 CMP は個別に設定してください。CLI またはスクリプト経由で NX-OS コマンドを使用してアクティブな CP から CMP それぞれの固有の IP アドレスを設定できます。その他の CMP 設定機能を実行するには、設定する CMP に直接接続します。

## CMP 設定の確認

CP の Cisco NX-OS CLI から CMP 設定情報を表示するには、次のコマンドを使用します。

コマンド	目的
<code>show running-config cmp</code>	CMP の実行コンフィギュレーションを表示します。
<code>show startup-config cmp</code>	CMP のスタートアップ コンフィギュレーションを表示します。
<code>show tech-support cmp</code>	CMP のテクニカル サポートの出力を表示します。
<code>show logging logfile   include cmp</code>	CMP のログを表示します。

CMP CLI から CMP 設定情報を表示するには、次のコマンドを使用します。

コマンド	目的
<code>show attach sessions</code>	アクティブまたは一時停止状態のアタッチ セッションまたはモニタ セッションに関する情報を表示します。
<code>show hardware</code>	CMP ハードウェアに関する情報を表示します。
<code>show interface</code>	cmp-mgmt インターフェイスに関する情報を表示します。
<code>show logs</code>	CMP Syslog メッセージを表示します。
<code>show processes</code>	CMP プロセスに関する情報を表示します。
<code>show running-config</code>	CMP の実行コンフィギュレーションを表示します。
<code>show sprom</code>	CMP の SPROM コンテンツを表示します。
<code>show ssh</code>	CMP の SSH に関する情報を表示します。
<code>show system resources</code>	CMP システム リソースに関する情報を表示します。
<code>show users</code>	システムにログインしたユーザを表示します。
<code>show version</code>	スーパーバイザ CP および CMP のソフトウェア イメージ バージョンを表示します。

# CMP イメージのアップグレード

Cisco NX-OS システム イメージの一部で、CMP 機能をサポートするコマンドのサブセットを含む CMP イメージをアップグレードできます。



(注)

CMP イメージは CP イメージに依存しないので、CMP イメージのバージョンが CP イメージのバージョンと一致しない場合があります。CMP で最新の互換性のあるイメージが実行されていることを確認するには、CP の Cisco NX-OS CLI から **install all** コマンドを実行します。

Cisco NX-OS のキックスタート イメージ、システム イメージ、および CMP イメージを同時にアップグレードするには、CP の Cisco NX-OS CLI から **install all** コマンドを実行します。このコマンドによって、CMP のソフトウェアは自動的にいずれもアップグレードされます。ソフトウェアがアップグレードされたら、スーパーバイザそれぞれの CMP を手動でリロードしてください。ソフトウェア イメージの詳細については、『Cisco Nexus 7000 Series NX-OS Software Upgrade and Downgrade Guide, Release 4.1』を参照してください。

CMP イメージのみをアップグレードする場合は、次の手順を使用します。

## 設定作業を開始する前に

デフォルトの VDC に属することを確認します (または **switchback** コマンドを使用します)。

## 手順の概要

1. **copy {ftp | tftp} remote-location local-location**
2. **show module**
3. **install module active-slot cmp system local-location**
4. **install module standby-slot cmp system local-location**
5. **reload cmp module active-slot**
6. **reload cmp module standby-slot**
7. **show version**

## 詳細手順

	コマンド	目的
ステップ 1	<pre>copy {ftp   tftp} remote-location local-location</pre> <p>例:</p> <pre>switch# copy ftp://10.1.7.2/n7000-s1-dk9.4.0.3.bin bootflash:n7000-s1-dk9.4.0.3.bin</pre>	FTP サーバからスーパーバイザ モジュールに CMP イメージをコピーします。
ステップ 2	<pre>show module</pre> <p>例:</p> <pre>switch# show module</pre>	デバイスに搭載されたモジュールの場所およびステータスの情報を表示します。

	コマンド	目的
ステップ3	<pre>install module active-slot cmp system location</pre> <p>例:</p> <pre>switch# install module 5 cmp system bootflash:/n7000-s1-dk9.4.0.3.bin</pre>	<p>Cisco NX-OS システム イメージから CMP イメージを抽出し、アクティブなスーパーバイザ モジュールの CMP に CMP イメージをインストールします。ロケーションの引数は、ファイル ロケーションとファイル名で構成されます。</p> <p>イメージのインストール方法の詳細については、『Cisco Nexus 7000 Series NX-OS Software Upgrade and Downgrade Guide, Release 4.1』を参照してください。</p>
ステップ4	<pre>install module standby-slot cmp system location</pre> <p>例:</p> <pre>switch# install module 6 cmp system bootflash:/n7000-s1-dk9.4.0.3.bin</pre>	<p>Cisco NX-OS システム イメージから CMP イメージを抽出し、スタンバイのスーパーバイザ モジュールの CMP に CMP イメージをインストールします (ある場合)。ロケーションの引数は、ファイル ロケーションとファイル名で構成されます。</p> <p>イメージのインストール方法の詳細については、『Cisco Nexus 7000 Series NX-OS Software Upgrade and Downgrade Guide, Release 4.1』を参照してください。</p>
ステップ5	<pre>reload cmp module active-slot</pre> <p>例:</p> <pre>switch# reload cmp module 5</pre>	<p>アクティブなスーパーバイザ モジュールの CMP をリロードして、アップグレードを完了します。</p>
ステップ6	<pre>reload cmp module standby-slot</pre> <p>例:</p> <pre>switch# reload cmp module 5</pre>	<p>スタンバイのスーパーバイザ モジュールの CMP をリロードして、アップグレードを完了します (ある場合)。</p>
ステップ7	<pre>show version</pre> <p>例:</p> <pre>switch# show version</pre>	<p>CMP の BIOS およびソフトウェア イメージ バージョンを表示します。</p>

## CMP パラメータのデフォルト設定

表 2 は、CMP パラメータのデフォルト設定値を表示します。

表 2 CMP パラメータのデフォルト設定

パラメータ	デフォルト
ログ レベル	2 (クリティカル レベル)
SSH サーバ	イネーブル
Telnet サーバ	ディセーブル

